

**(7) 国際交流推進センター****① 国際交流推進センター****ア 設置の趣旨（目的）及び組織**

国際交流推進センターは、本学の特色を生かし、国際的な学生交流及び学術交流の推進並びに教育研究の充実を図るとともに、学校及び地域社会等との連携により、国際的な視野を持った人材を養成することを目的として設置されている。

本センターは、センター長、センター教員、兼務教員及び協定校アドバイザーにより構成されている。

本センターの運営に関する重要事項を審議するための国際交流推進センター運営委員会及び本推進センターの業務を遂行するための部会が設置されている。部会は、2部会を設置し、協定校交流推進専門部会は協定校との交流推進等、留学生支援専門部会は留学生の修学及び生活上の指導等を担当している。

**イ 運営・活動の状況**

平成28年度における本センターの主な運営・活動状況は、以下のとおりである。

- i) コペンハーゲン大学（デンマーク）とのErasmus+に係る大学間協定の締結並びに哈爾浜師範大学（中国）及び国立嘉義大学（台湾）との交流協定の更新を行った。
- ii) 海外との研究交流事業の実施（本学教員の派遣4人、外国人研究者の受け入れ2人）のほかに、外国人研究者5人を受け入れた。
- iii) 平成28年8月18日国立嘉義大学（台湾）の教員及び学生24人の本学訪問団を受け入れた。
- iv) 上越地域における外国人児童生徒の修学支援を実施した。（参加本学学生34人、参加児童生徒12人）
- v) 41人の外国人留学生を受け入れ（平成28年10月1日現在）、日本語補講をはじめ、日本文化研修（1泊2日、行き先：金沢市）、スキーのつどい（1泊2日、場所：赤倉）などを実施した。
- vi) 日本人学生の海外留学を支援した。（哈爾浜師範大学に平成28年4月から1人派遣、カレル大学に平成28年6月まで2人派遣、10月から1人派遣）
- vii) 海外教育（特別）（実践）研究B（アメリカ：参加学生数14人）及びC（韓国：参加学生数9人）、海外実践フィールド・スタディ（オーストラリア：参加学生数1人）並びに短期海外研修プログラム（台湾：参加学生数7人）を実施した。
- ix) 国際交流インストラクター事業を実施した。
- x) その他国際交流センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

**ウ 優れた点及び今後の検討課題等**

平成28年度において、新たにコペンハーゲン大学（デンマーク）とのErasmus+に係る大学間交流協定を締結するとともに、外国人留学生の積極的な受け入れにより、平成28年10月1日現在で前年度より8人増の41人を受け入れた。

**② 運営委員会****ア 設置の趣旨（目的）及び組織**

- i) 組織設置の趣旨（目的）

国際交流推進センター運営委員会は、本センターの運営及び業務の推進並びに本センターの事業計画に関する事項等を審議することを目的としている。

- ii) 組織の構成及び構成員等

運営委員会は、センター長、センター教員、兼務教員及びその他学系又は専攻・コース等から学長が指名した者14人で構成されている。

また、運営委員会の下に、協定校交流推進専門部会及び留学生支援専門部会の2専門部会が置かれている。

## イ 運営・活動の状況

### i) 委員会等の開催状況

平成28年度において、運営委員会は、6回開催するとともに、書面審議を2回行った。また、協定校交流推進専門部会を2回開催し、留学生支援専門部会を5回開催した。

### ii) 審議された主な事項

平成28年度において審議された主な事項は、①コペンハーゲン大学（デンマーク）とのErasmus+に係る大学間協定の締結、②外国人留学生の受け入れ、③外国人研究者の受け入れ、④海外との研究交流事業計画、⑤交流協定の更新、⑥年度計画に関する自己点検・評価、⑦学内予算要求・要望計画等である。

### iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

本センターは、国際戦略及び国際交流に係る基本方針を定め、この中で、「異文化コミュニケーション能力と異文化理解マインドを持った教員養成の一層の充実」及び「学校教育とその教育者養成に関する国際レベルでの研究推進の拡充」を重点目標とし、各種事業に取り組んでいる。

平成28年度においては、①既存の大学間交流協定の更新に加えて、新たにコペンハーゲン大学（デンマーク）とのErasmus+に係る大学間協定を締結、②外国人留学生の積極的な受け入れに伴い平成28年10月1日現在で前年度より8人増の41人を受け入れ、③中断していた海外フィールド・スタディを再開、④国際交流インストラクター養成事業の充実を図り、大学院学生15人及び学部学生1人の計16人の参加の下、上越地域の小学校などで6回ワークショップを実施するなど、従来の事業と併せて、国際交流の充実、外国人留学生の受け入れの促進、グローバル化への対応の充実を行った。